

テーマ「大川市選挙での投票体験」

大川樟風高等学校 龍 みずな

十八歳に選挙権が引き下げられて私は初めて投票に行きました。七月に学校で投票の練習もしましたが、実際に体験すると、すごく戸惑い緊張しました。

私は、正直、誰に投票しても良いという安易な考えでした。だから家に立候補者の方のカードなどがあっても見ませんでした。しかし、実際投票となると誰に入れて良いのか分からず戸惑っていました。投票所の記載台には名前の紙だけ貼ってあり、立候補者がどんな政策どんな考えを持っているか分かりませんでした。そのため次回投票へ行く際はインターネットなどで情報を集めて自分と同じ考えを持つ立候補者の方に一票を入れようと思いました。

次に私はなぜ選挙権が十八歳に引き下げられたのかを調べました。すると、一七六カ国が十八歳から選挙権が与えられていることが分かりました。今まで日本は少数派だったそうです。

そして日本は、選挙権が与えられる年齢が変更されたのは一九四五年以来七十年ぶりです。しかしなぜ今なのでしょう。その理由は若者の政治離れでした。若者に政治について興味を持ってもらうためや票数を増やし投票率を高くするためなど選挙年齢が十八歳に引き下げられた理由は様々あります。しかし変化が生じると批判は付きものです。テレビのインタビューを受けた方の中には賛成の方もいらっしゃいましたが、その一方で「十八歳はまだ未熟で無責任だ」「経験も判断能力も不十分だ」という反対意見もありました。しかし十八歳は未熟で無責任なのでしょうか。たしかに経験は他の年代よりは少ないかもしれませんが。だからといって無責任だと決めつけてよいのでしょうか。そのテレビの中で一人の方がこんな発言をしていました。「選挙よりもパンケーキのほうが大事」だと。私は選挙よりもパンケーキのほうが大事だといって選挙にも行かない大人の方がもっと無責任だと思います。

日本に住んでいる私たちはこれまで、「二十歳になったら選挙に行く」ことが当たり前だと考えていました。しかし、十代の私が投票できると知ったとき、もう大人なんだという意識も必要だと感じました。そして、政治に興味を持たなければならないと思いました。これから両親と政治の話をすることで知識を積極的に取り入れようと思いました。